

コミュニティルーム「はなみずき」 商店街の空き店舗で住民がカフェ営業



千葉県柏市北部に位置する「柏ビレジ」。63.7ヘクタールの広大な敷地に、約1580世帯5500人が居住する戸建分譲住宅地です。1982年の入居開始から約30年、独自の建築協定や緑地協定によって美しい景観と緑豊かな住環境が保たれている一方、住民の高齢化など様々な問題も現れてきました。その解決に向けて誕生したのが、コミュニティルーム「はなみずき」。住民自らが設立し運営する、地域交流の拠点です。

地域の象徴

コミュニティルーム「はなみずき」は、住民交流と商店街の活性化を目的に、2006年3月に設立しました。柏ビレジ商店街の空き店舗を利用し、通常はカフェとして営業。会議室やイベントスペースとしても活用できる多機能施設となっています。

週5日、11:00~16:00のカフェ営業を支えるスタッフは、全員無給のボランティア。コーヒー150円にアイスクリーム200円など低価格でメニューを提供し、施設維持費を賄っています。

名前の由来は、各家庭に植えられたシンボルツリー。柏ビレジには、区画ごとにそれぞれイチヨウや桜などのシンボルとなる木が植えられており、そのひとつである「はなみずき」が採用されました。

必要なものは自ら作る

設立のきっかけは、2004年。当時、住民交流の中心だった商店街の衰退が進

み、空き店舗が出るように。そこで、柏ビレジ自治会長の呼びかけで地域活性化について議論が始まり、住民有志による「地域活性化のための準備委員会」が発足しました。

委員会では、全住居を対象に「地域に必要なこと」についてアンケート調査を実施。住民から多くあがった意見は、「気軽に集まれるサロン」と「文化的な楽しみの場」の二つでした。そこで、カフェを軸に様々な文化イベントを実施する施設として、はなみずきの設立構想が固まりました。

具体化に向け、豊四季団地など近隣住宅地の類似施設を視察。その後、自治会館などを利用して毎月一回のお試しイベントを開催しながら、運営ノウハウを習得しました。

もっとも難航したことは、施設と資金の確保。空き店舗を利用するための不動産会社との折衝や、補助金の調達に向けた行政との折衝など、なれない交渉事も住民同士で協力しながら乗り越えました。

開設後は順調に利用者が拡大し、現在の年間利用者は8,000人以上。毎月1~2回のペースで、コンサートや映画鑑賞会、絵画展などの文化イベントを実施しています。



地域のアーティストを招いて開催するコンサート。人気のイベントは、前売り券で売り切れてしまうことも。



カフェ営業時も、絵画や陶芸品を展示。日常的に芸術に触れることができ、住民に好評。

コミュニティルーム「はなみずき」

広域地域との連携

はなみずきは、周辺地域の連携拠点にもなっています。2010年からは、東京大学大学院の演習「都市環境デザインスタジオ」で柏ビレジがテーマとして取り上げられたことをきっかけに、東京大学柏キャンパスの学生が主体の団体「Balloon」との連携活動を始めています。

Balloonは、地域の活性化に向けて、トラックで作ったカフェや図書館など「移動できる施設」を街なかに展開する方法を研究中。これまで、はなみずきではBalloonのメンバーと住民が柏ビレジの将来について議論する意見交換会を行ってきました。

そしてついに、2011年5月に移動型カフェの試験営業が実現。日中は街なかでカフェを開き、夜ははなみずきで地域住民が集うバーを営業しました。Balloon代表の鈴木亮平さんは、「今後ますます増加する高齢者は移動に不便が多いため、トラックで住宅街の中に交流空間を生み出せれば」と狙いを話します。

はなみずき代表の谷川真理さんは、「柏ビレジだけでなく、周辺地域と共に活性化することが重要。そのために、こうした連携はとても意義のあるチャレンジ」だと、学生とのコラボレーションに期待を寄せます。

地域で課題解決

柏ビレジで今後最大の課題となるのが、住民の高齢化問題です。谷川さんは、「地域に必要なものは地域で作っていく気持ちが重要」だとして、住民同士でできる対策を考えています。

例えば、草むしりや大掃除など、日常生活に必要な作業を助けあう相互扶助の関係構築。高齢者だけでは体力的に難しい作業を、元気な人がサポートする地域づくりです。また、住民同士で自動車をシェアすることも検討中。車を運転できなくなった人が、買い物などで近所の人と一緒に車に乗っていくことはできないか、話し合いを進めています。

多彩な活動の拠点として活用されてきたはなみずきは、今年で設立5周年。今後



学生団体Balloonが持ち込んだトラックで、住宅街に突如出現したカフェ。道行く人が集まり、井戸端会議が始まる。



はなみずきがムードのあるバーに変身。地域や世代を超えた交流が広がる。

記念イベントも実施予定なので、まずはWEBサイトの確認を。

コミュニティルーム「はなみずき」に関するお問い合わせ先

[TEL]04-7149-8734

[WEB]<http://www.hanamizuki-kv.com/>



谷川 真理 氏
はなみずき 代表
柏ビレジ自治会 相談役

キーパーソン・トーク

地域のコミュニティづくりで大切なことは、拠点となる「場所」の存在です。はなみずきは、「行きたい時に自由に行ける」がコンセプト。そのため、あえて集会所にはせず、カフェとして営業することにしました。集会所には用件がないと行けません。カフェならふらっと立ち寄ることができる。最近では男性ひとりで来る人や、柏ビレジの外から来る人も増え、私もずいぶん知り合いが増えました。

今後期待することは、男性の積極的な地域参加です。女性に比べて男性は地域コミュニティへの参加に消極的なことが多いのですが、今後は定年を迎える男性が急増してきます。はなみずきでは、地域参加のきっかけづくりとしてパソコン教室など男性を含む高齢者が参加しやすいイベント

を計画しています。

近年、地域の縁が希薄になってきたと言われていますが、私は改善の兆しを感じています。3月11日に発生した東日本大震災も、改めて地域のつながりを確認する機会となりました。震災直後、はなみずきの利用者がいつもより大幅に増え、通常は休業の日曜日にも初めて営業するほどでした。不安な時は外に出て人と話すだけでも安心できるもので、はなみずきはその受け入れ場所となれたことは、5年間続けてきた大きな成果です。

場所という意味では、柏の葉キャンパス駅前の柏の葉アーバンデザインセンターにもとても期待しています。私も何度か訪れていますが、やはり拠点となる場所があると、交流のきっかけが生まれますね。今後、はなみずきとも連携を深めて、地域が一体となって盛り上がることを期待しています。

□編集後記□

取材時、最近カフェのメニューに加わったというカレーをいただきました。特徴は、高齢者でも食べやすいように、お肉はあえてほぐしてあげていること。このような他者を思いやる気持ちが、はなみずきの居心地の良さの秘密なのかもしれません。(蛭川)

●このニュースレターに関するお問い合わせ先

柏の葉アーバンデザインセンター (UDCK) 広報担当 小林、蛭川
〒277-0871 千葉県柏市若葉184-1柏の葉キャンパス149街区13
TEL 04-7140-9686 FAX 04-7140-9688
E-MAIL ma-kobayashi@udck.jp WEB <http://www.udck.jp>

柏の葉
アーバン
デザイン
センター
UDCK